

第4回 東京 iCDC 専門家ボード会議 議事要旨

日時:令和5年6月29日(木) 午前:11時~11時45分、午後4時~5時15分

<出席者>

午前:

賀来 満夫東京 iCDC 所長、谷口 清州先生、宮地 勇人先生、石井 良和先生、柳原 克紀先生、武藤 香織先生、金光 敬二先生、吉川 徹先生、長谷川 秀樹先生、片山 和彦先生、森田 公一先生、松山 州徳先生、吉村 和久先生、井上 豪先生、神垣 太郎先生、舘田 一博先生、宮坂 昌之先生、河岡 義裕先生

午後:

賀来 満夫東京 iCDC 所長、中島 一敏先生、鈴木 基先生、西浦 博先生、西田 淳志先生、四柳 宏先生、今村 顕史先生、三嶋 廣繁先生、奈良 由美子先生、小坂 健先生、松本 哲也先生、國島 広之先生、光武 耕太郎先生、小原 道法先生、佐藤 佳先生、掛屋 弘先生、鈴木 忠樹先生、加來 浩器先生、中村 茂樹先生、渋谷 智恵先生、竹村 弘先生、高橋 邦彦先生、矢沢 知子先生、脇田 隆字先生、田中 耕一先生

1 賀来所長御挨拶

- ・東京 iCDC は2020年10月に立上げ、今年の6月27日で、ちょうど1,000日。専門家ボードは、9つのチームで構成。
- ・外部アドバイザーの先生方からも、科学的な助言をいただき、これまで第一線の先生方のご協力を得て活動してきたことを改めて感謝申し上げたい。小池都知事からも、御礼の言葉をいただいている。
- ・まだコロナは終わっていないが、これまでの経験や活動の成果を踏まえて、さらに活動の幅を今後広げていくため、本日はこれまでの活動を振り返るとともに、先生方から今後の活動に向けた多くのご意見やご提案などをいただきたい。

<新メンバーの紹介>

4名の先生方に、新たにボードメンバーにお入りいただくことになった。

- ・都立駒込病院感染症科部長 今村顕史先生(感染症診療チーム)
- ・(独)労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所
過労死等防止調査研究センター統括研究員 吉川徹先生(感染制御チーム)
- ・東京大学医科学研究所システムウイルス学分野教授 佐藤佳先生
(微生物解析チーム)
- ・大阪大学免疫学フロンティア研究センター招へい教授 宮坂昌之先生
(外部アドバイザー)

2 これまでの東京 iCDC の取組総括

＜事務局説明＞

- ・これまでの取組を振り返り、冊子形式で記録を作成する。英訳、ポケット版なども作成し、発信していく。
- ・これまで新型コロナ対策に集中的に取り組んできたが、今後は、コロナ以外の感染症にも活動の幅を広げ、インテリジェンス機能の強化、効果的な感染症対策の実施の支援、社会全体の感染症対応力向上の三つの柱で取り組んでいく。
- ・都では、新型コロナのモニタリング会議の後継会議的な位置づけとして、東京都感染症対策連絡会議を設置し、2 回開催している。
- ・新型コロナ 5 類移行後もモニタリング分析を実施し、毎週公表している。
- ・冊子(案)の内容等についてご意見があれば、事務局までお寄せいただきたい。

3 今後の活動方針について

専門家ボードの各チームより、これまでの活動の振り返りと今後の活動について、
発表

＜疫学・公衆衛生チーム＞

- ・繁華街の滞留人口などから今後の状況を予測、モニターしてきた。必要な情報を把握し、解析していくことは極めて重要。
- ・5 類移行に伴い、定点把握になったことによる情報発信の在り方を議論。
- ・沖縄県の状況をみても、医療の現場はまだまだ厳しい局面。医療逼迫をどう防いでいくか、数字、メッセージの出し方など検討する必要あり。
- ・次の感染症流行に備え、データの有効な活用を検討していくとよい。

＜感染症診療チーム＞

- ・レジストリ研究を継続したい。
- ・現場の状況が見えにくくなっている。
- ・呼吸器感染症は非常に重要なテーマ。重症化する患者など解析をしていきたい。
- ・サーベイランス、データ収集や解析は継続していく必要がある。
- ・現場では医療職が苦しい状況。特に看護師が不足している。

＜検査診断チーム＞

- ・感染動向の把握と制御には、検査の精度管理、正しい結果の確保が重要。国の調査事業で、立上げから(検査件数が)拡大するに従い、精度が悪くなってきたということがわかり、反省点が多数ある。
- ・インフルエンザなど他の感染症を疑うときの多項目同時検査というものがあるが、精度管理について一項目でも難しいもの。
- ・検査が拡充しても信頼性が乏しい点で、国際的にはビハインド。国と都で連携をして、平時から体制整備をしていくべき。
- ・正しい検査のためには、平時からの人材育成、啓発教育(抗原定性検査を実施する

一般都民を含めて)、コミュニティ・職域での専門職との連携も必要。

- ・2020 大会の検査体制は特筆すべきこと。今後は精度管理が重要になる。
- ・現場からの知識は常にアップデートしていくことが重要。

<リスク・コミュニケーションチーム>

- ・1 万人規模のアンケート調査は、都民へのメッセージの出し方に非常に重要な役割を果たした。
- ・予算の関係などもあり、タイミングよく調査し、発信に反映することは本来非常に難しい。その点では、都はとても頑張ってくれて、良いタイミングで調査ができた。
- ・課題としては、リスクチームの助言、実際の都からの発信、他のチームからの発信のコントロールのプロセスがわかりにくかった。
- ・都民意識調査を政策につなげることが重要。
- ・行政と専門家の協働体制は非常に良い。
- ・都民の感染症リテラシーの底上げを図る必要がある。
- ・今回の仕組みは東京都だからできたのでは、と言われることがあるが、小さい自治体でもやれることについて、伝承していただきたい。そういう役割もあると思うので。

<感染制御チーム>

- ・マニュアル、ハンドブックなど、多くの普及啓発資材を作成した。
- ・病院や福祉施設からの情報収集のほか、それらの施設へのサポート体制と2つの柱がある。
- ・コロナ患者は隔離対応で不安。どういう感染対策が現場でできるか。多くの医療機関での連携が重要になる。
- ・定期的な情報発信は必要。

<微生物解析チーム>

- ・抗体保有調査や変異株に関しては頻繁にミーティングを行った。
- ・東京は、全国に先導する形で流行が起こることが多く、新たな変異株が入った時は臨床の先生方にも参加していただけて、非常に有意義だった。垣根を超えた意見交換は非常に貴重な機会。
- ・下水中のコロナウイルス検出が一つの指標になりうることも示していただいた。今後活かせるのではないかな。
- ・コロナの再感染と免疫応答など、監視を続ける必要がある。

<研究開発チーム>

- ・主に技術開発で、比較的自由な視点から提案していくチームだった。
- ・様々な国でやっている取組など、ネットワークを構築しながら色々な技術提案をすべきだったかという反省もある。
- ・今後は感染研、大学、健安研やチームごとの連携、つながりを作って技術開発を一

緒にやりたい。iCDC フォーラムの開催に期待。

- ・健康安全研究センターや医学総合研究所等と情報交換をして今後の連携につながるシンポジウムや研究会の開催があるとよい。
- ・定期的な情報発信は続けていくべき。

<人材育成チーム>

- ・これまで医師看護師向け研修動画配信や医療関係者を対象とした研修などを実施
- ・今後は学校や職場等、個人個人が感染症への対応能力を高めていくようなことも必要
- ・青森県で実施されているような教育プログラムを東京都でも展開するのも一案
- ・平時から人材育成をしっかりとっていくことが必要
- ・子供向けの感染症対策のセミナー、イベントなどの実施を提案。基礎研究の理解や科学的な考え方の浸透につながる。
- ・人材の輪を広げることが重要。東京 iCDC でいえば、継続的にチーム会議を開催すべき。

<情報マネジメントチーム>

- ・他のチームと比べるとスタートは遅かったが、パンデミック対策には情報をいかに活用していくかという観点は重要。
- ・HER-SYS などからとれる患者情報以外にも、医療体制や検査の情報など総合的にマネジメントし、効率的に対策を立てるための議論を行っていきたい
- ・総括がその後の取組に活かされないことはもったいない。継続した取組にすることが重要。

4 意見交換

- ・これまでの活動をご紹介いただいた。本当に膨大な活動について資料にまとめるということは大変なことで、その努力に敬意を表したい。
- ・有事と平時の在り方について、例えば韓国では、「K 防疫」として様々な対策を行った。いつコロナまたは他の感染症の拡大があるかわからない状況で、どのように準備しておくかというのは重要な問題。今回の経験が一部でも役立つ。調査・分析や情報発信などと書かれているが、備えておくことは非常に大切。
- ・さまざまな分野の専門家が会するこのような取組は、非常に貴重。今後もぜひ継続してほしい。
- ・それぞれのチームがどのような活動をしているのか、共有できる機会を設けてもらえるとうい。

<賀来所長より 結びの一言>

- ・今後とも、外部アドバイザーの先生方から、ご助言を賜りたい。

- ・東京 iCDC は東京都やスタッフ、そして皆様方の努力で成り立っている。
- ・都の組織も改正され、さらにこの東京 iCDC を発展させていく仕組みができています。
- ・皆さまにも引き続きご意見を賜りたい。先ほども話があったが、各チーム、タスクフォースの先生方とコミュニケーションが取れる iCDC フォーラムを開催したいと考えています。
- ・第9波が来るという話も出ている。そういったことについても、皆さまからの助言を賜りたい。
- ・まだ平時と完全に言える状況ではないが、今後の在り方も検討していきたい。

以上